

■フランス：原子力学会、既設炉の発電コストを 3.3 ユーロセント/kWh と発表

フランス原子力学会（SFEN）は 2017 年 9 月 21 日、将来発生する収益とコストをもとにした試算として、原子力既設炉の発電コストは 3.3 ユーロセント/kWh とする報告書を発表した。原子力の発電コストについては、2014 年にフランス会計検査院が総発電コスト 5.98 ユーロセント/kWh とする報告書を発表しているが、SFEN は「既設炉を延長運転するか廃止するか判断においては、過去の投資分等を含めた総発電コスト（会計検査院の試算方法）ではなく、将来の収益・コストをもとにした発電コストを基準とすべきであり、今回の 3.3 ユーロセント/kWh という値は、今後 20 年間で原子力が最も競争力のある電源であることを示すものである」と述べている。なお、フランス政府は 2025 年までに原子力発電電力量比率を現在の 75% から 50% に引き下げる目標を示しており、2018 年中に実現に向けた具体的工程（将来の発電電力量見通し、40 年超運転の是非等）を示す見込みであるが、今回の SFEN の試算はその議論に先駆けて、減価償却が進んだ既設炉の経済性をアピールするために発表されたものと考えられる。